

生涯教育研修会報告書
病理・細胞検査研究班
学発番号 11-078

平成24年3月5日
報告者
所属 宇治徳洲会病院
氏名 江口 光徳
連絡先 0774-20-1111 (代)
会員番号 264509-0255

行事名：細胞検査分野 研修会
(京都・奈良 古都を結ぶ勉強会)
日時：平成24年3月3日 土曜日 13:30～17:30
会場：奈良市総合医療検査センター 視聴覚室
主題1：血尿診断ガイドラインと全自動尿統合分析装置 UX-2000 のご提案
講師所属：シスメックス株式会社 学術情報課
講師名：宮前 英治氏
主題2：一般検査室と細胞診検査室の融合～尿沈渣から尿細胞診へ～
講師所属：SRL 福岡ラボラトリー
講師名：西 国広技師
主題3：膀胱尿路上皮癌・治療による組織像・細胞像の修飾について
講師所属：奈良県立医科大学 病理病態学
講師名：島田 啓司医師
主題4：症例検討 3例
講師所属：京都市立病院、宇治徳洲会病院、奈良市総合医療検査センター
講師名：三宅 秀一技師、江口 光徳技師、安達 博成技師

分類：専門 検体検査-20点
全体参加人数：全体70人（京臨技会員16人）

以下、講演内容など

今回の研修会は尿検査における主に形態についての研修ということで、一般検査の技師及び病理・細胞診の技師を対象とした研修会であった。

演題1では血尿診断ガイドラインに沿った赤血球形態の見方や、尿沈渣検査における遠

心上清に細胞が残っていること、機械によるフローサイトメトリー法による細胞分類のことなどをお話いただいた。今まで行われていた遠心条件では G が甘く、上清にまだ細胞がたくさん残っていることが分かってきており、遠心条件を見直すなどの対応が必要となると教えていただいた。演題 2 では尿沈渣での細胞の種類や見え方などを、S 染色、ギムザ染色、Pap 染色それぞれの写真を用いて分かりやすく解説いただいた。演者の先生が長年経験され得られた所見などを分かりやすく教えていただき、大変勉強になった。演題 3 では病理医の立場より膀胱尿路上皮癌における治療による組織像・細胞像の修飾についての話をしていただいた。膀胱がんの治療では BCG 療法や化学療法、放射線療法など色々あり、それぞれに治療に伴う細胞変化が見られる。これらの特徴を踏まえ鏡検することは大切であるため今回の講演は参加者にとってルーチンを見るうえで非常に役に立ったと思う。

最後に症例検討が 3 例行われた。やや難しい特殊な癌や、ふんだん良く見るが総合的に考えるべき細胞、尿一般検査室と細胞診検査室が協力して癌が発見された症例など、普段の検査で覚えておいたほうが良い症例であった。

京都・奈良での合同勉強会で参加者も多く、非常に良い研修会であったと思う。